

2024年度 実務経験のある教員等による授業科目一覧（歯科衛生学科）

NO	科目名	代表教員	単位数	概要
1	心理学	河合 篤史	2	心理学の成り立ち・発達(乳幼児期～高齢期)・パーソナリティに関する心理学的知見について学ぶ。さらに、対人援助職として必要な臨床分野の基礎的な内容を学ぶ。実務経験あり…担当教員は、小学校教員およびスクールカウンセラーとして業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして、上記の授業を行う。
2	生物学	村上 伸也	2	生命の成り立ちや進化、細胞の成り立ちと活動、生命が連続するしくみ、生命が環境の変化に合わせて生活するしくみについて、「生命」をキーワードとして理解する。さらに生物学の学習を通じて、医学／歯科医学領域の生命科学との関連や最新の生命科学についても知識を深める。実務経験あり…担当教員は、大阪大学歯学部、大阪大学歯学部附属病院において、教員および歯科医師として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かし上記の授業を行う。
3	データサイエンス入門	川上 申之介	2	AI・データサイエンスについて学習する。社会におけるデジタルデータの扱われ方や利用のされ方に基づき、統計解析の基礎やデータの取り扱い方法を身に付ける。実務経験あり…担当教員は、教育機関・研究所において情報処理実務経験があり、その実務経験を活かして上記の授業を行う。
4	介護概論	藤田 了	2	複雑化する生活課題に対応する制度・政策、サービス、支援を学ぶ。要介護者と介護者についての理解を深め、介護・福祉・保健・医療等の領域の専門職の支援について具体的に学び実践的な知識を習得することをめざす。また、対人援助職者としてクライアントの自立をめざした側面的なかかわりについて理解する。適宜授業の理解を深めるために、DVD等の視聴覚教材の活用、ペアワーク、グループワーク等の演習を行うので主体的に取り組むこと。実務経験あり…担当教員は、社会福祉法人等において、介護や介護支援専門員(ケアマネジャー)として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして、上記の授業を行う。
5	薬理学・歯科薬理学	山本 まりこ	2	薬理学とは薬物を生体に与えた場合に生体が現す反応を探索する学問である。前半の授業では、薬物の作用機序、薬物の体内動態について、人体の機能と疾病について理解を基に修得する。後半の授業では、歯・口腔疾患の予防と治療に用いる薬物について修得する。実務経験あり:担当教員は、大学附属病院ほか総合病院における臨床経験と大学医学部ならびに歯学部における臨床実習指導をはじめとした医学・歯学教育に携わっており、これらの経験を活かして、上記の授業を行う
6	口腔衛生学Ⅰ	永田 英樹	1	前半の授業では、まず健康を左右する環境について学ぶ。後半の授業では、歯・口腔の健康と口腔疾患の予防法について学ぶ。本科目では、衛生学に関連する内容と、口腔衛生学のうち特に口腔清掃やう蝕の予防法について取り上げる。実務経験あり…担当教員は、歯学部附属病院において歯科医師として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして、上記の授業を行う。
7	口腔衛生学Ⅱ	永田 英樹	1	前半の授業では、まずフッ化物によるう蝕予防、歯周疾患の予防を中心に口腔疾患・異常の予防について学ぶ。後半の授業では、健康に関わる地域の役割について取り上げ、地域保健活動について学ぶ。さらに、保健情報について学ぶ。実務経験あり…担当教員は、歯学部附属病院において歯科医師として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして、上記の授業を行う。
8	衛生学・公衆衛生学	永田 英樹	1	住民を取り巻く環境や社会に関する多岐にわたる領域を知り、心と体の健康との関連性を包括的に理解できるよう、基礎的な知識を学ぶ。実務経験あり…担当教員は、大阪大学歯学部および大阪大学歯学部附属病院において歯科医師として教育や診療に従事した経験があり、その実務経験を活かし上記の授業を行う。
9	歯科衛生学総論	畠中 能子	1	前半の授業では、歯科衛生士という職種ができた社会背景を踏まえて、歯科衛生士の根幹となる歯科衛生士法を学びます。後半では、現在の歯科衛生士が担っている業務、これから期待される業務内容について学びます。歯科衛生士にとって必要とされる医療人としての心構え、予防業務に欠かせない健康の概念についても、全体を通して学びます。実務経験あり…担当教員は、病院において歯科衛生士として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして上記の授業を行う。
10	歯科衛生学各論	磯貝 友希	1	歯科衛生は生活習慣のひとつであり、また全身の健康状態と深く結びついた行為、方法、手段でもある。そこで、歯科衛生を各ライフスタイル別にどのように行うべきかを学ぶ。次に歯科衛生過程より、科学的な歯科保健指導について学ぶ。実務経験あり…担当教員は、歯科診療所において歯科衛生士として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かし上記の授業を行う。
11	保存修復学	細見 環	1	1年次秋学期で履修した歯科材料の知識をもとに、保存修復学の基本的な考え方を理解します。理解を助けるため、manaba等で課題を出したり、適宜、区切りのよいところでまとめの小テストを行う予定です。実務経験あり…担当教員は歯科診療所において歯科医師として業務に従事した経験があり、その実務経験を生かして、上記の授業を行います。
12	歯内療法学	細見 環	1	歯を保存する(抜かずにおく)ことの大切さから、歯内療法学の意義・目的を学び、歯髄疾患・根尖性歯周組織疾患の成り立ち・症状・対処の仕方等を学びます。“歯内治療”では『見えないところの治療』が中心になります。歯科衛生士は歯科医師をサポートし、診療が能率的かつ円滑に行われるよう努めねばなりません。診療内容や治療手順は充分に理解しておきましょう。理解を助けるため、マナバ等で課題を出したり、適宜、区切りのよいところでまとめの小テストを行う予定です。実務経験あり…担当教員は歯科診療所において歯科医師として業務に従事した経験があり、その実務経験を生かして、上記の授業を行います。

2024年度 実務経験のある教員等による授業科目一覧（歯科衛生学科）

NO	科目名	代表教員	単位数	概要
13	歯周病学	村上 伸也	1	健康な歯周組織とは何か、歯周病とは何か、そして歯周病の原因とリスク因子は何か、どのように発症・進行していくかを、その病因論から理解する。次に歯周病治療をどのように進めていくのか（歯周治療の流れ）について、各ステップごとに学習する。実務経験あり・・・担当教員は、大阪大学歯学部および大阪大学歯学部附属病院において歯科医師として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かし上記の授業を行う。
14	歯科補綴学	藤井 隆晶	1	顎口腔系の形態や機能を説明し、歯の欠損に伴って起こる障害について講義する。その上で欠損を補うための補綴装置（クラウン・ブリッジや義歯、インプラントなど）のそれぞれの特徴、製作および装着手順、メンテナンスや補修方法について講義を行う。実務経験あり・・・担当教員は大阪歯科大学において6年、関西女子短期大学にて7年、一般歯科診療所において11年の実務経験があり、その実務経験を活かし上記の授業を行う。
16	小児歯科学	佐々木 有美	1	小児歯科医療の目的は正しい永久歯列の獲得であり、小児歯科臨床ではそれを障害する全ての疾患や習癖の予防と治療を行なっている。小児歯科では、患者である小児だけでなく、その保護者である養育者の信頼を得ることが大切で、幅広い知識と十分なコミュニケーション能力が求められます。この授業では、その基本を理解し、その内容を説明できる能力を養成したいと思っています。実務経験あり：担当教員は、大学歯学部の小児歯科学講座で常勤として4年間、非常勤として4年間診療・教育・研究に携わり、20年以上小児歯科、矯正歯科の診療に携わる。歯科医師国家試験予備校で7年間講義を行い、10年以上歯科医師国家試験過去問解説問題集の執筆にも携わる。現在、日本小児歯科学会専門医指導医として自身の医院で診療に携わりながら、3歳児健診担当医や保育園委託園医として地域医療にも携わり、日本小児歯科学会近畿地方会幹事としても活動を行う。この経験を活かし、講義を行う。
17	歯科矯正学	有馬 良幸	1	歯科矯正学の基礎、実際の治療、歯科衛生士の役割などについて、視覚素材を使用しながら授業をすすめていく。実務経験あり・・・担当教員は、附属病院矯正歯科および大学において指導医、助教として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かし、上記の授業を行う。
18	高齢者・障害者歯科学	樂木 正実	1	高齢者・障がい者を取り巻く社会的背景を考え、高齢者・障がい者の全身的、歯科的な特質、他職種間の連携や役割を理解する。その上で、歯科衛生士として、高齢者・障がい者個々のニーズに応じた歯科保健指導、口腔保健への支援、摂食・嚥下指導などの実践につながる基本的な知識を理解する。実務経験あり・・・担当教員は、大学および総合病院等において歯科医師として、障害者歯科、有病高齢者の歯科診療業務に従事した経験があり、その実務経験を活かし、上記の授業を行う。
19	歯科予防処置総論	畠中 能子	1	健康の概念、疾病予防の概念をベースに、口腔の二大疾患であるう蝕と歯周疾患を中心に、歯科衛生士が行う予防方法を学びます。実務経験あり・・・担当教員は、病院において歯科衛生士として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かし上記の授業を行う。
20	歯科予防処置方法論Ⅰ	畠中 能子	1	歯科予防処置を行うためには、人の口腔内を観察できる力が必要である。狭い口腔内を十分観察するには、患者の体勢、術者の姿勢、ポジション、ミラーテクニックなどの口腔内を観察する環境設定と、歯科器材を用いて実施する的確な操作が重要である。エキスポローラー、プローブによる操作など、人の口腔内を十分観察できるための基礎訓練および相互実習による訓練を行う。常に人を対象とする職務であることを忘れてはならない。実務経験あり・・・担当教員は、病院、保健センターで歯科衛生士として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かし上記の授業を行う。
21	歯科予防処置方法論Ⅱ	畠中 能子	1	各種齲蝕予防処置法の特徴および術式を、基礎実習および相互実習で修得する。また、歯科予防処置方法論Ⅰに引き続き、エキスポローリング、プローピング、スケーリング、歯面研磨操作を相互実習で修得する。超音波およびエアスケーラー操作も相互実習で修得する。実務経験あり・・・担当教員は、病院、保健センターで歯科衛生士として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かし上記の授業を行う。
22	歯科予防処置方法論Ⅲ	畠中 能子	1	方法論Ⅱに引き続き、スケーリング操作の習得に多くの時間を割いている。後半は相互実習が続く。人に対する対応を特に重視する。また、フッ化物局所応用の実践を学ぶ。実務経験あり・・・担当教員は、病院、保健センターで歯科衛生士として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かし上記の授業を行う。
23	歯科保健指導総論	大岡 知子	1	歯科保健指導の第一歩として、そもそも歯科衛生の対象となる人間はどんな存在なのか、めざす人間の健康についての理解をライフサイクル各期の特徴を紹介しながらすすめていきます。そして、各期でどのような健康課題がおこるのかを理解してもらう。実務経験あり・・・担当教員は歯科診療所において歯科衛生士として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かし上記の授業を行う。
24	歯科保健指導方法論Ⅰ	大岡 知子	1	歯科保健指導をおこなう第一歩として自分自身の口腔内を整えていきます。それには方法を知って技術を身につけることに加えて、日常生活で続ける工夫も必要です。口腔を清潔に整える爽快感、難しさを経験することによって歯科保健指導に必要なことに気づき、考えていきます。実務経験あり・・・担当教員は歯科診療所において歯科衛生士として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かし上記の授業を行う。
25	歯科保健指導方法論Ⅱ	大岡 知子	1	ライフサイクルでの健康課題を知るとともに、歯科保健の立場から指導内容を考えていきます。具体的には青年期にあたるみなさんの食事調査を通して栄養学的な分析の仕方を知っていきます。さらには、口腔の状態、生活の様子、心のありようを統合した歯科衛生過程を分析の枠組にして助言を考えます。すべての実習項目をとおして、相手とのコミュニケーションのとり方を工夫することも大事なこととなります。実務経験あり・・・担当教員は歯科診療所において歯科衛生士として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かし上記の授業を行う。

2024年度 実務経験のある教員等による授業科目一覧（歯科衛生学科）

NO	科目名	代表教員	単位数	概要
26	歯科保健指導方法論Ⅲ	大岡 知子	1	様々な対象に応じた歯科保健指導や健康教育が確実にできるために必要な知識や技術を学ぶとともに歯科保健指導・健康教育の指導案作成および媒体作成を実践して地域歯科保健実習へとつなげていく。実務経験あり・・・担当教員は歯科診療所において歯科衛生士として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かし上記の授業を行う。
27	歯科診療補助総論	花谷 早希子	1	歯科診療の補助という行為は極めて専門性の高いものである。チェアサイドで行われる種々の歯科診療補助に共通した“歯科診療の補助・介助業務のあり方”を学び、患者中心の医療が安全、円滑におこなわれるための全般的な知識・技術を理解する。実務経験あり・・・担当教員は、歯科診療所において歯科衛生士として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かし上記の授業を行う。
28	歯科診療補助方法論Ⅰ	花谷 早希子	1	感染予防、医療安全に留意しながら歯科臨床実習室の取り扱いの知識を身に付ける。口腔内診査記録、合着材をはじめとした歯科材料の知識と技術を身に付ける。ラバーダム防湿法、バキューム操作、印象採得、X線写真撮影の補助は、相互実習にて技術の習得を目指す。実務経験あり・・・担当教員は、歯科診療所において歯科衛生士として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かし、上記の授業を行う。
29	歯科診療補助方法論Ⅱ	永田 英樹	1	保存修復治療、歯周治療、補綴治療の術式および診療に必要な器械・器具の名称と用途を学び、診療補助能力を身につける。また、ラバーダム防湿法や印象採得技術を身につけるとともに、X線写真撮影における診療補助能力も身につける。さらに、相互実習により、相手の背景、価値観を尊重した患者配慮能力を身につける。実務経験あり・・・担当教員は、歯学部附属病院等において歯科医師や歯科衛生士として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かし、上記の授業を行う。
30	歯科診療補助方法論Ⅲ	細見 環	1	歯科の各診療科における歯科診療補助についての理解を深め、手技に習熟することが目標です。本講では、周術期を含む口腔外科治療、歯科矯正治療、臨床検査などの術式、および診療の流れに必要な器械・器具の名称と用途を理解し、診療補助能力を身につけます。さらに小児、高齢者や有病者、障害者も含め、相手の背景、価値観を尊重した患者配慮能力についても学びます。適宜、相互実習を行います。実務経験あり・・・担当教員は歯科診療所において歯科医師あるいは歯科衛生士として業務に従事した経験があり、その実務経験を生かして、上記の授業を行います。
31	口腔介護総論	畑田 晶子	1	要介護者を取り巻く社会背景、身体的・精神的な状態、歯科的な状態、口腔清掃の評価、口腔機能の評価、そしてアプローチ方法を学んでいく。なかでも、口腔環境の整備や摂食・嚥下などのセルフコントロールが困難となった場合やそのおそれのある場合について、歯科衛生士としての支援を学習する。また、他職種との連携を理解する。実務経験あり・・・担当教員は、障がい者施設および保健センターで歯科衛生士として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かし、上記の授業を行う。
32	口腔介護方法論Ⅰ	新井 麻実	1	要介護者は若年者から高齢者まで幅広く、障害の度合いや必要とする介護は個々に異なることを理解する。歯科衛生士が支援する当事者は、常に生命の危機にあるということを念頭におき、個々の状態に適した対応を理解する。実務経験あり・・・担当教員は、障害者施設等において歯科衛生士として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かし、上記の授業を行う。
33	口腔介護方法論Ⅱ	畑田 晶子	1	介護をOral CleaningからOral Health Careに至るまでと捉えることによって、口腔のみならず全身疾病の予防へと連動していることを認識する。さらに、摂食・会話・呼吸などといった口腔機能を基本とし、それらの維持・向上へのアプローチについて、知識および技能を修得することを目的とする。実務経験あり・・・主担当教員は、障害者施設および保健センターにおいて歯科衛生士として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かし、上記の授業を行う。副担当教員は、歯科診療所において歯科衛生士として勤務する中で訪問診療に従事した経験があり、その実務経験を活かし、上記の授業を行う。
34	臨地実習Ⅰ	花谷 早希子	1	人権文化の創造について理解する。幼児、児童、生徒ならびに高齢者に対する口腔保健の管理に必要な知識を学習し、実際の現場で保健指導を行う技術を修得する。さらに、高齢者および障がい者施設を見学することにより、生活を知り、対象者の特性を理解する。地域歯科保健活動に必要な知識と技術を深化する。また、高校生における個々の口腔内観察を体得する。実務経験あり・・・3名の担当教員は、歯科診療所において歯科衛生士として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かし、上記の授業を行う。
35	臨地実習Ⅲ	新井 麻実	1	人権文化の創造について理解し、現場で歯科衛生士に求められる支援を考える。高齢者を想定した口腔機能評価法や訓練法などを中心とし、講義や実習を通して、また外部専門職による事前指導や意見、課題や提案等を通して、支援する方法を学習する。高齢者施設や各市の地域活動(中学校等含む)の現場を想定し、口腔歯科保健に求められる課題を見つけ出し、グループ学習を通して支援する方法を学習し準備する。実務経験あり・・・主担当教員は、歯科衛生士として訪問歯科診療業務に従事した経験があり、その実務経験を活かし、学内外で上記の授業を行う。
36	口腔保健学特論B	永田 英樹	1	前半の授業では、歯科衛生士国家試験に向けて、まず口腔衛生学と衛生学・公衆衛生学について学ぶ。後半の授業では、保存修復学、歯科補綴学について学ぶ。実務経験あり・・・担当教員は、歯学部附属病院において歯科医師として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かし、上記の授業を行う。
37	口腔保健学特論C	畑田 晶子	1	フッ化物の局所応用(歯磨剤を除く)、高齢者障害者歯科分野の知識の整理を行う。実務経験あり・・・担当教員は、障害者施設および保健センターにおいて歯科衛生士として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かし、上記の授業を行う。

2024年度 実務経験のある教員等による授業科目一覧（歯科衛生学科）

NO	科目名	代表教員	単位数	概要
38	口腔保健学特論D	大岡 知子	1	健康づくりを考究するための科学という視点から、栄養指導と歯科保健指導を学ぶ。毎回小テストを実施して理解度を計りながら講義を進めていく。実務経験あり・・・担当教員は歯科診療所において歯科衛生士として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かし上記の授業を行う。
39	口腔保健学特論E	畠中 能子	1	人々の健康を口腔内からアプローチできる専門職種の中核に歯科衛生士がいる。歯科衛生士が患者・クライアントを支援することで、個人のQOLは確実に向上する。しかし、それには豊富な知識と確実な判断ができる能力が求められる。3年間の知識の集大成を行う。実務経験あり・・・担当教員は、病院において歯科衛生士として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かし上記の授業を行う。
40	口腔保健学特論F	細見 環	1	口腔保健学特論Fでは、主として歯内療法学、口腔外科学および矯正歯科学についてトータルに学びなおします。小テスト(確認テスト)をほぼ毎回行います。また期間中に行われる歯科衛生士国家試験の模擬試験についての解説等も行います。実務経験あり・・・担当教員は歯科診療所において歯科医師として業務に従事した経験があり、その実務経験を生かして、1口腔を1単位とした臨床的な観点から、上記の授業を行います。
41	口腔保健学特論G	古賀 恵	1	2、3年次春学期までの臨地・臨床実習において、各ライフステージに位置する人々の口腔からの健康づくりを実際の場面で体験してきました。本講義ではその経験を踏まえて、各ライフステージにおける健康課題をさらに深く理解していきます。全身と口腔の状態を関連づけて様々な状態、問題を抱える人々に対して、歯科衛生士ができる健康づくりへの支援を考えだすことができる知識を備えていきます。実務経験あり・・・担当教員は、歯科診療所において歯科衛生士として従事した経験があり、その実務経験を活かし上記の授業を行う。
42	口腔保健学特論H	花谷 早希子	1	歯科診療補助に共通した“歯科診療の補助・介助業務のあり方”を学び、患者中心の医療が安全、円滑におこなわれるための全般的な知識・技術の総復習。3年間で学んだことの総まとめと位置づける。実務経験あり・・・担当教員は、歯科診療所において歯科衛生士として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かし、上記の授業を行う。
43	口腔保健学特論J	村上 伸也	1	歯科基礎医学と口腔衛生との接点を考察する。実務経験あり・・・担当教員は大阪大学歯学部附属病院の教員として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かし授業を行う。
			47	